

奉多

譜牒錄

壹

内閣文庫		
番號	和	16322
冊數	101 ( 32 )	
函號	157	127

内閣文庫		
架	冊	號
三	一〇	三三三
函		類
		和書



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



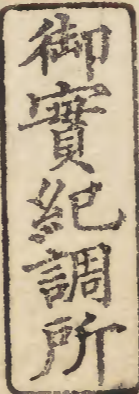
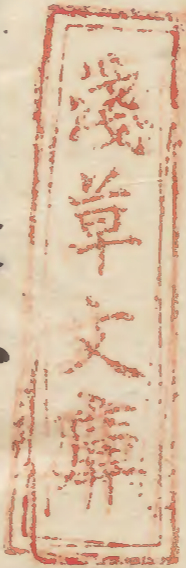
© Kodak, 2007 TMI: Kodak







譜牒餘録卷之二  
本多中務大補之三







夏法守方  
泚奉書之寫或拾五通

肉

一冬泚陣之泚泚奉書

或拾通

一姬路泚城多門作

泚奉書之寫

一德藏之泚泚泚奉書

之寫









万歳々々々々

安友帯力

去判

十月朔日

本多上席舟

去判

本多上席舟

望

急心度中入舟大坂雑説

及之付る 大津系換

子名也より成る 徳寺

稲葉古手又古田大橋

一柳監物津田氏戸少

分り左京此所存之

回寄る乳之候ハ西商人

西指川ら成りあり



江州と此の如く世に  
を尋ねて陳五のつた  
てはね結成てこれ月  
久と隣

十月

安 第

成 年

中 上

去判

去判

去判

杉平下絶す度  
本多更法書度

望

急度中合の亮おひ  
去帳中合人教く  
分 百進そそ  
後 指 門 成 早



澁田近江成三成  
之と隣

安帯刀

書判

十月

中上御舟

書判

中多更洗書及

杉平下總書及

是と字面計之書

以上

多心度中入内言書中

入内人数之と分書右

進果之澁田と成紙

下成之右之進心書

中入一書重之め成

之と隣

中多更洗書



十月号

安友常力

印多美法寺度

杉平下総寺度

高心度中入河音おの  
杉平下総寺度西苗人

成伴勢元西国及高  
西五下高旨中入一花  
按津寺度西苗寺三村  
下総寺度、按津寺度  
高心度西苗人教己  
西国及高心寺可  
高心西苗寺西苗寺  
高心下総寺度、西  
高心寺入伴勢元



分ハ考及ク揚川所成  
早ク休見と云同及  
之上下成二流前滋田と  
少成下成中入一在  
休見と云上下成各  
手与 少成三ノ流ハ  
少成下成中入一在  
之ハ得

中多上平舟

十月廿

書判

安友若力

書判

中多上平舟

是書寫為計之書

以上

中多上平舟



按律書及 涉死之  
と成中より有る百老類の  
実前二 按律書  
古状より入る人数  
得る分より法死何れ  
新古述に抄行する  
果て 依見するまゝに  
下ら成る言前を滋田と  
成中に入ると

依見するまゝに  
ひ子平る 津  
多行に成り成  
習書不之に隣

十月六日

安友若力

相平下總書及



上

為度中入の習明流  
有る同ふ伏見の道果  
二有る方觀は  
大由和極耳十百由  
後是之の之書心  
中入一在事与めは  
之の得

安部力

十月七日

書判

本上野介

書判

本夏流書度

清宗示

是之寫為計也

為一必要流之人數

由日乃為体見ま



早に成るべくす

急がず申す先書

大儀に成るに相平指津書

又法書及と申す

或るに成る申す

漸田急と申す

惟くも成るに成る

申すに法別書

申すに成るに成る

申人数に連る

下成申す

早に成るに成る

加納申す

下成

元成り同成り

上格下二級府

成るに成る

下成



山崎のりつ之に下る成  
山崎のりつ之に下る成

安 帯刀

十月七日

判

中上村

大甲

日

松平下總守殿

名

ある一重なるもの敷  
及ら向公一割也  
と申す至及地と申す  
名高なる入 依り之を  
色にて然る一割也  
と申す至及地と申す  
わすれぬと申す  
清

安 帯刀



十月十日

書判

中上村舟

書判

中田英治書房

書判

中一渡橋也

也

勢別

人教有同

之城

清

早

中

安

十月十日

書判

中上村舟

書判



中多美法寺度  
水岩水

望

急之度中入合兼名  
涉城水番之候意  
久之備二部 作付兼  
下持之候之 作候之

成水番以今度  
美法寺度 大勢  
右連之上之今度  
定之兼名之為  
云人云之与  
以下之久之備  
也之候之百兼  
之候之之候

中多美法寺



十月十七日

去判

兼名

西海寺指元中

望上

總平入口仍方二台也  
之、上意之徳大各元  
之元子為之、西海寺

了の、百海、乃、之、而、之、而  
平海食物之、以、論、之、之  
板、之、之、之、之、之、之、之  
之、上、之、之、之、之、之、之、之  
之、之、之、之、之、之、之、之

十月十九日

安部力

本多上野舟

板倉洋屋之舟







次々々々西陣新し松平  
下総守度ハ掃了後ハ  
三ノノ後五ノ右ニ色  
沖意ッる百各々成也  
お後ッる西陣新し  
隣

十月廿日

安友第力

七判

中多上辨

七判

中多上辨  
并伴掃了中  
松平下総守度

系

上

急度中入ハ只々  
の西陣瓦の場  
二ノに多修了



今存之少傳之少無  
用之かあることありと  
さうさく之の成り  
るに傳へ

本上村舟  
十月廿二日  
吉判

本田英彦書及  
井伴掃部及  
相平下總守及

心正

急度入り元  
於味方と他盤妨  
根藉又と被取去  
方之八百村在在裁  
了と櫻古板と紙  
正伝と板下と書て  
活作付く之に傳へ

成集人心



柔月之

古判

安帶刀

古判

板伴契書

古判

古上村券

古判

古由夷法書度

一柳監物度

古田大橋度

古中左系度

古一物入

古物云法度

古手島女

古急度中入

古下澄坊

古下子江



下等物其細  
既使涉目其  
下等中合名之請

成集人正

十月九

安帶刀

去判

板伴契寺

去判

本上船舟  
去判

本由美法寺度  
一柳 監物度  
古田 大橋度  
多部 左京度  
系

上



明十二日三天王寺にて  
一押書あり  
作方、百、夜、寺、和、泉  
天王寺にて、改、元、一  
一、一、一、一、一、一、一、一  
後、右、右、一、一、一、一、一  
如、一、書、一、一、一、一、一、一  
一、一、一、一、一、一、一、一

山代文月

土月寺

於才久在

去判

横田甚右衛門

去判

初康侍右衛門

去判

澁川甚右衛門

去判

去判



吉田隠岐守

判

城 和泉守

判

本由美法守度

一柳 監物度

古田 大捨度

多甲 左衛門度

吉田

市一子及一子此法  
夜一候方々求申元  
一子も不致荷田様

急後 申の 徳勢

下 荷田 伴之 俊學 此信

山 守 下 之 能 一 子

作 有 方 之 此 目 月

元 新 申 之 君 一 子

山 心 之 之 情 之



十二月十七日

本多上野守

未判

安友帯刀

未判

成瀬隼人

未判

本多美濃守

一柳 監物

古田 大膳

本多左衛門

本多一守

本多一守

本多一守

自本陣

惣持

本多

本多



高き度は作月を存  
け中ら世中、して  
修飾、よと修

成集人正

新月廿日

書判

安 希刀

書判

中上時舟

書判

中の上流の夜

以上

然中入作の由、あは仕事

とあ、何もともめりも

文交、さるつさ、山と水

つ、せ、ま、み、み、旨

御意、ら、た、り、る、そ、水

ん、く、そ、急、り、つ、の、せ、て



成ぬるすよりのこと  
後

中多上時舟

十二月十日

去判

成瀬隼之

去判

安友若力

去判

中多上時舟

以上

姫路より清城男心より  
石垣よりなる由り伝ふ成  
度よりなる由り伝ふ成  
よりなる由り伝ふ成  
よりなる由り伝ふ成  
後

午

八月十日

安友對馬守

去判



古井大炊助

去判

古多上尉介

去判

沼井雅末次

去判

古多美法寺殿

今中

是八画苗汁

急心度中入小河福海

左巻の事度居城と

清玄の事度居城と

西耳立の事度居城と

新作の事度居城と

江崎の事度居城と

相海の事度居城と

何れも云ふ事度居城と



物、君と相尋る元、ハ  
右に後、吾作也、ハ  
物又、右、未、つ、去、更、夜、國  
境、之、元、并、相、交、内、少、夜  
中、更、造、夜、之、之、ハ  
去、夜、右、相、渡、ハ、執  
之、始、入、之、之、之、之、

板倉園防守

四月廿四日

安友對馬守  
古井大炊助  
古多上村守  
酒井雅子氏

板倉保賢守夜

今之市

為記 公方板 水上海子



又月あつと結 作あつと  
下成まら心あつと下

以上

急度中入はゆ定ま  
ひし城さ修次筋ヤ  
八木大夏うりかひ不  
致三月る村夏さ者

患熱付くゆし然ま  
乃筋大筋入るあつと  
八木大夏お清うと也  
まらひし城さ筋納り  
中らるゆ候中つと  
新修付時にお場と在  
ゆらと也と右まひし城  
ゆ手前つと筋相納り  
ひし城さ定ま書付



系...百制札清  
立...也下...  
言...令...  
猪...郎...  
清...

又月十日

伴舟甚...  
去判

安友對...  
去判

去判

古井大牧助

去判

秋本但馬守

去判

板倉内膳正

去判

板倉右衛門佐

去判

河井備後守



書判

本由上時介

書判

本多氏法書度

急度中入中少而  
修次節結變定

之候三月而持田  
平吉手及石川重長度  
新書之習札之寫  
手之在清形分  
下法候身之御又之  
辨之之分以候并  
大之之他之者同  
賣買候之者之茶  
如信書跡等之



中付者  
上意 二六 年 白 法  
日月 三 老 乃 古 之  
条 之 书 乃 根 宗  
若 多 出 沙 乃 三 七  
名 之 合 乃 委 細 亦 令  
上 使 氣 乃 乃 演 役 令  
乃 之 律 乃 乃 乃 乃

安 友 對 乃 乃

柳 月 乃 乃 古 井 大 飲 助

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃



分ら成るる之を以て

の存を成るる

名を成るる入りの名を  
次飛脚と成るるあこ  
侍等所成るる成るる  
侍等所成るる一里飛脚  
と成るるあこ成るる也  
と成るるあこ成るる也  
と成るるあこ成るる也

自らの名を以て

五月十日

本由上野

判

安夜考

判

本多氏徳吉度

子  
五月十八日

本多中務大輔



夷法守方長年書狀  
寫拾四色

内

一 明石就野細干沖城

藥之書狀五色紙之色

古井大飲物及自筆

一 安宅丸清龍寺成公書

狀三色

一 福徳丸書古手紙及自書狀







一 乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一

一 乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一

一 乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一

一 乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一

一 乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一  
乃一 乃一 乃一 乃一



花

一人もあせんとく  
くしあか急らぬあま  
きりあけあせんとく  
然るもそと之人も  
あまあか急らぬあま  
ちりあけあせんとく  
しあか急らぬあま  
あまあか急らぬあま

一丈坂

一丈坂  
侍の志事  
古来  
新来  
ちりあけ  
一丈元  
三使



必し清意をくくし  
西下し西無月と  
孫を信あし百千西人  
下也  
一ひめ君様孫のそく  
さいし西様極然とそく  
目知交事好し今度  
少使志氣つ法事子孫  
孫前より孫を御し百

心安下し心好く之様  
侍

三月廿七日  
吉井大惣助  
奉判

本弟清書格

書後

以上

先札毎尺付し



甲斐守及水后様  
繪巻太近奉及御名  
陰昌と成涉紙外水  
紙面之類并水使志  
礼口之通取在  
直上園少受何進以  
涉使礼 御茶  
若古書水志ニ格子  
以作自法合 抄不

吾々之身ノ事也  
下之心也 委其  
信者之為信從  
桑不能詳公之  
情

同二月十

安藤對馬守

奉判

古井大炊助

奉判



酒井雅夫

判

本内及法

之

中一々志

一この使志

活信

一書と

一書と

一書と

一書と

一書と

一書と

一書と

一書と



事ぬりて披露  
侍へ交へ成り  
らりあきしり  
城をいし 清宗入り  
委ねるを 何事  
い使へん 事  
一いあきん 事  
流もまり 事  
かい 事

一いあきん 事  
下りい 事  
いあきん 事  
いあきん 事  
いあきん 事  
いあきん 事  
いあきん 事  
いあきん 事  
いあきん 事  
いあきん 事



一 びめ君様 孫のそく  
 さいの中かやうする  
 目初夜くく  
 九月年く 水右左太  
 身は  
 一 中国のふ志んのそくも  
 名るく 信下  
 水右面く 毎おんた  
 何のそく 北つても

少のそくも 終下  
 信を  
 一 信く 孫左と水ふ  
 志んの別てら 水く 旨  
 上  
 一 孫左と 水く 左  
 水く 水 知り  
 水く 水 水 水  
 水く 水 水 水



了るるるめ女  
我亦もしおとと  
列る示す好  
一能定事及孫  
有く出有る  
心安て心  
妻神の友  
下るるる  
名物

七月廿八日  
古井大助  
判

本夏迄  
去後

己上  
清使札之執具  
頃手意有く



上方松弥山城極難  
為成山城有百七  
心易小次 姫秀  
是是買之目  
有松又明石網干  
山城之松尾山城  
是是為山城之  
清宗入中  
清宗之孫 右

松子之孫  
清之孫  
山城之松尾  
是是買之目  
有松又明石網干  
山城之松尾山城  
是是為山城之  
清宗入中  
清宗之孫 右



傳

七月廿七日

安友對馬守

未判

古井大紋助

未判

本多上野守

未判

河井雅直

未判

本多義徳

四拾

中上野守

三浦

三浦

追尋書

孫

孫

孫

孫

孫

孫











急須の度、波砂より  
水信通あり成り  
のほろり天気が近  
江戸に還りあり成り  
清入城下成り  
有り  
目録の度、存知り成り  
相平新志より成り  
あつけの身をも  
何れ別々及ぶ成り

水形なるも、以て海舟の  
下く下成り信あり  
なる信あり

八月十日

七井大炊助

奉判

安友對馬守

奉判

板倉洋次守

奉判



廿多上麻舟

半判

廿多第幾番

...

...

...

...

一筆...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







下りり板作別まへ  
少用りる次飛脚  
糸く百ゆか、杉紙  
掃きし時、少紙  
隣

将因次書

卯月廿四日

本判

古井大炊物

本判

是の事なき、是の  
故紙有り、是の事なき  
之を、是の故紙と  
人として、是の事なき  
之を、是の事なき

卯月廿四日

本判



多交以手御中  
治政有方多其  
少其乃 三三三  
中其後  
沙年立不他  
其仁其  
其城  
沙市  
其角

多其  
江戶  
其  
其  
其

卯月

三判

卯月

三判



ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね  
ふんい表 おおむね

物子と入とある  
候の御所を  
あつた  
時

六月十日  
上井大次郎  
三判

中  
七



去年三月の如状同くあり  
余と相見申し廣く  
若くは月日とて  
之れ指し示す如く  
申す申す申す申す  
大形にて  
之れ申す申す申す  
之れ申す申す申す  
何方にて

所々あり城と  
之れ申す申す申す  
一左右に  
之れ申す申す申す  
申す申す申す申す  
之れ申す申す申す  
之れ申す申す申す  
之れ申す申す申す  
之れ申す申す申す



今一知河後  
昨河一西城  
車一  
中一  
行一  
行一  
行一  
行一  
行一  
行一

乃又  
乃又  
乃又  
乃又  
乃又  
乃又  
乃又  
乃又  
乃又  
乃又

板倉信



六月廿五日

正判

市法別換

沙振

わしあま中まあま

しんじしんじしんじ

しんじしんじしんじ

五月十九日

此地田舎のり

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

一 一 一 一 一 一 一 一 一 一



一 日本お海をいしあふ  
きんらともあけし  
てきとこいりちと  
ははをえとも 沖を  
きん出あふく 西回く  
おんききいとも 西回く  
はまの 西回く  
元と一 西回く  
一 中国をいしあふの

一 日本お海をいしあふ  
きんらともあけし  
てきとこいりちと  
ははをえとも 沖を  
きん出あふく 西回く  
おんききいとも 西回く  
はまの 西回く  
元と一 西回く  
一 中国をいしあふの



一 船中より西へ向て  
 行舟しし西舟も先日を  
 河舟より申す  
 一 大坂へ新舟をこりし  
 おせられし舟中  
 一 此舟おろし舟中  
 〇の西舟船又

西舟の中より  
 河舟

二月十五日  
 書判  
 二舟中舟

舟中舟  
 半紙

舟中舟  
 舟中舟



子之能也

中後

誠心

上之

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後

中後







てきつらぬ世に凡そあは  
せぬ、何れも、女神、  
少時、成、道、不、  
て、あ、の、  
お、ま、  
致、  
神、  
と、代、  
は、

ともひらめ、  
ま、  
何、  
中、  
下、  
切、  
清、  
ひ、  
し、



御判唯々之旨元より存  
之の心本質其存質を此  
所成志之る存之る  
存之る存之る此  
併言元二三方也  
之存之る一存知  
其國之る存之る二三方  
七一之存之る存之る  
之存之る同存之る

御判之旨元より存  
之の心本質其存質を此  
所成志之る存之る  
存之る存之る此  
併言元二三方也  
之存之る一存知  
其國之る存之る二三方  
七一之存之る存之る  
之存之る同存之る

板印

三月廿六日 御判

御判

板印

御判











Handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document, written in cursive Japanese calligraphy (sōsho). The text is faint and difficult to read due to fading and bleed-through from the reverse side.





